

事業所アンケート報告書

令和5年3月

石狩市保健福祉部高齢者支援課

「事業所アンケート」の概要

1 アンケートの目的

事業者の率直な感覚を推し量る目的で意識調査に近いアンケート形式で行い、市内各事業所が行っているサービスや職員等の事業状況の確認、及び、サービスの需給バランスや必要なサービスに対する状況や事業者の意見の確認等を行うことで、地域密着型サービス、総合事業、その他の施策を含めた介護保険事業とその計画の適切な運営を図る。

2 アンケート対象及び件数

市内介護事業所（地域包括支援センターは除く。）、有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅など 110 事業所（62 法人）へ郵送にて送付。返信用封筒にて回収。

3 アンケート期間

令和 5 年 1 月 13 日から令和 5 年 2 月 3 日まで。

（最終回答 令和 5 年 2 月 13 日まで含む。）

4 アンケート手法

市が直接実施（郵送）する。依頼は法人宛に送付し、その中で事業所毎に回答を依頼する。回答は、法人が事業所毎とりまとめ郵送で返信する。

5 アンケート票

（参考資料）事業所アンケート

6 分析の手法

多種多様な介護サービス等の種類があることから、その種類を

- ・住宅系（介護サービス外の有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅）
- ・施設系（短期入所生活介護、短期入所療養介護、特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設（介護医療院）等）
- ・支援系（居宅（予防）介護支援）
- ・その他（これら以外の訪問介護等のサービス）と分類し、概ねの傾向を次ページ以降のように分析した。

また、地域別（厚田区、浜益区及び旧石狩市エリア）の事業所についても注視し、必要と判断する場合は分析概要に記載した。

7 回収率

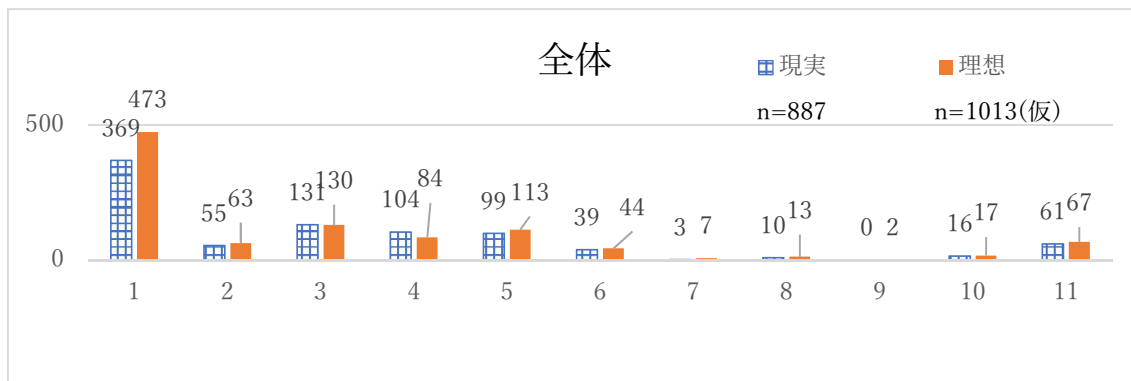
その他 70.7%（41/58）、支援系 81.8%（9/11）、施設系 95.8%（23/24）、住宅系 58.8%（10/17）合計 75.5%（83/110）

1-1 職員の数と職員確保について

【設問】 現在配置している各職種等の人数、理想的な配置希望人数を、常勤換算従事者数と常勤の専従職員数で記載してください。（有料老人ホーム等は概ねの人数で結構です。）

1 現在の実雇用と理想の雇用人数の比較

このグラフは、アンケートで、理想の雇用人数が空欄の場合、現在の実雇用人数と仮定しています。



（注釈）介護スタッフ（1 介護福祉士、2 実務者研修修了者、3 介護職員初任者研修者、4 上記1～3以外の介護スタッフ）、看護分野スタッフ（5 看護師、准看護師、保健師等）、リハビリ分野スタッフ（6 理学療法士、作業療法士、7 言語聴覚士）、その他の専門職等（8 社会福祉士、9 歯科衛生士、10 栄養士・管理栄養士等、11 介護支援専門員とし、グラフ左を現実雇用、右を理想の雇用人数（人）としている。

分析概要

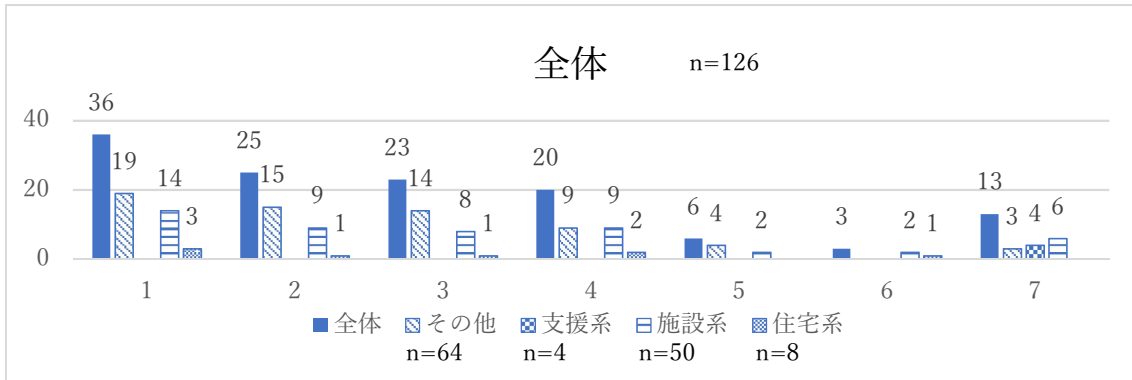
理想の雇用人数より現実の雇用人数が不足しているものは、全体では1 介護福祉士、2 実務者研修修了者、5 理学療法士等、6 言語聴覚士、10 栄養士・管理栄養士等が目立ち、特に1～3の介護スタッフの不足感があるように思われる。

分類類型毎に理想より現実が不足しているものを見ると、その他では1 介護福祉士、2 実務者研修修了者、支援系では11 介護支援専門員、施設系では2 実務者研修修了者、住宅系は3 介護職員初任者研修者が目立った。

前回調査（3年前）と比較し、全体的に理想と現実のギャップ（不足感）が大きくなり、特に1～3の介護スタッフの人材確保に苦慮していることが伺える。

1-2 人材確保に苦勞している職種

また、特に人材確保に苦慮している職種を上位4つまで番号を○で選んでください。



(注釈) 介護スタッフ (1 介護福祉士。2 実務者研修修了者、介護職員初任者研修者。3 上記1～2以外の介護スタッフ。)、看護分野スタッフ (4 看護師、准看護師、保健師等。)、リハビリ分野スタッフ (5 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士。)、その他の専門職等 (6 社会福祉士、歯科衛生士、栄養士・管理栄養士等。)、7 介護支援専門員

分析概要

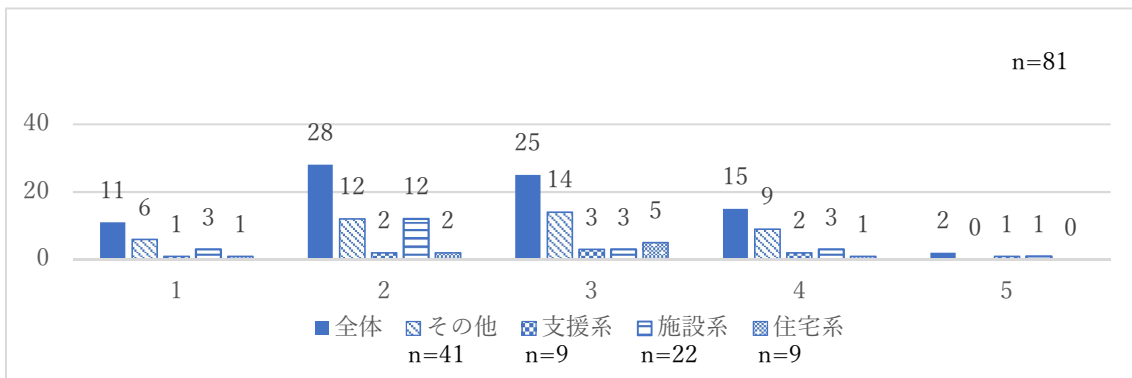
分類類型毎に、人材確保に苦慮している割合 (事業所数に対して○をつけた数の割合) を見ると、施設系 (23 事業所 217.4%)、次にその他 (41 事業所 156.1%) で特に苦慮しているとの回答が高く、逆に支援系 (9 事業所 44.4%)、住宅系 (10 事業所 80%) はその割合は低かった。

特に苦慮しているとの回答の内、介護スタッフ (1～3) の割合が高く、次に、看護分野スタッフ (4)、次に介護支援専門員 (7) の回答が多く見られた。

事業所において多数を占める介護スタッフの確保には苦勞していると思われる。

2 職員の不足感について

【設問】 職員の過不足状況についてどう感じていますか。



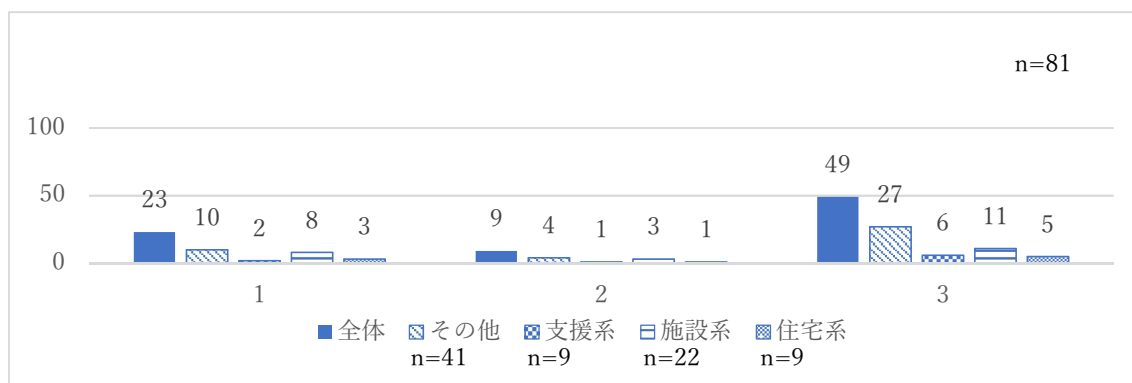
(注釈) 1 大いに不足 2 不足 3 やや不足 4 ちょうどよい 5 余裕がある

分析概要

全体では不足～やや不足している感覚を持っている回答が多く見られた。前回調査と比較し、全体的にグラフ左側に寄っており、職員が不足しているとの感覚を持っている回答が多くなった傾向が伺われる。分類類型別に見ると、その他と施設系で特に不足感が高い傾向がみられる。

3 職員の定着状況について

【設問】 職員の定着率についてどう感じていますか。



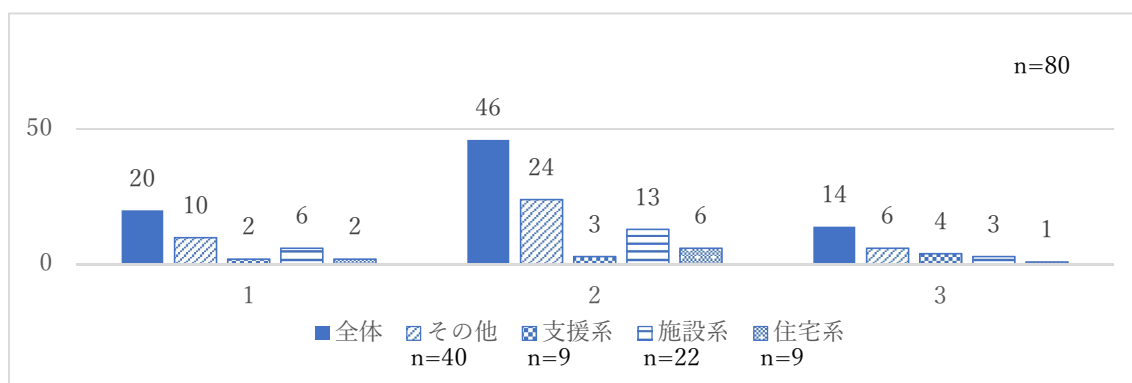
(注釈) 1 低くて困っている 2 低い困っていない 3 困っていない

分析概要

定着率については、全体では概ね安定し困っていない感覚を持っている回答が多かった。また、地域別では「1 低くて困っている」は旧石狩市エリアが多く見られた。

4 生活援助にかかる助手、補助者の活用について

【設問】 有資格者ではないが一定程度生活援助サービス等ができる人（石狩市の「家事サポート従事者研修」を受けた人等）の活用について、どのように思いますか。



(注釈) 1 活用できる 2 検討の余地はある 3 活用できない

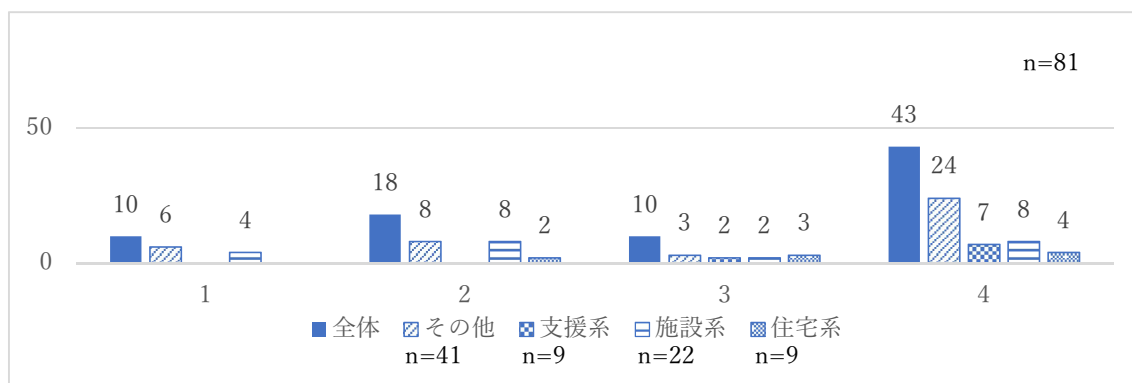
分析概要

有資格者ではないが、市が実施する「訪問型サービス A 従事者研修」等を受講し買物、調理、掃除、ゴミ分別等の簡易な生活支援を一定程度ができる人材の活用について、全体では、「1活用できる」、「2検討の余地はある」という感覚を持っている回答が多かった。

分類類型別に見た場合、最も多いのが「2検討の余地はある」という回答だが、支援系は「1活用できる」という回答が少なく、これは専門性が強いことによると思われる。前回調査と比較し、「1活用できる」、「2検討の余地はある」の回答は若干増加している。

5 派遣労働者の活用について

【設問】 派遣会社から派遣された人（労働者派遣法に基づく）を受け入れていますか。また、既に受け入れている場合、その人数も教えてください。



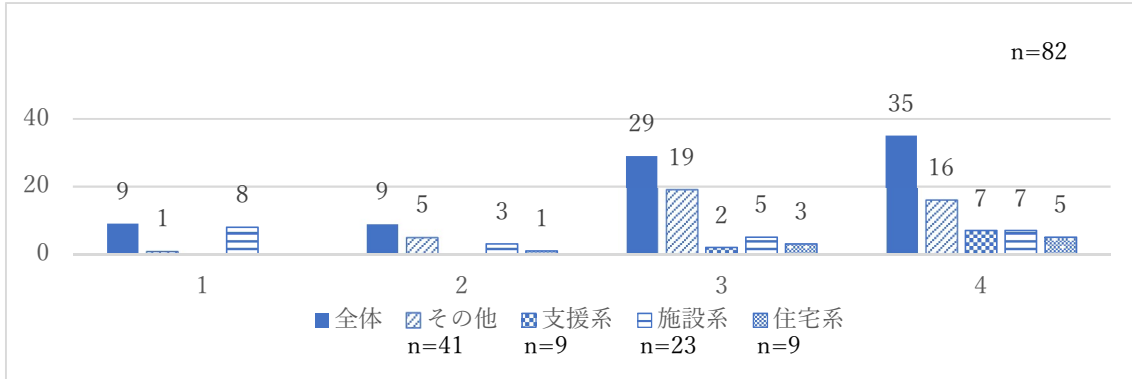
(注釈) 1 受け入れている 2 検討している 3 わからない 4 派遣の受け入れはしない

分析概要

全体では、わからないという回答もあるが、派遣労働者を受入れている事業所も見られる一方、受け入れを行わないと回答する事業所が最も多かった。分類類型別に見た場合、その他は、「4派遣の受け入れはしない」という回答が多い一方、その他、施設系で「1受け入れている」という回答があり、平均して1事業所につき2人の受け入れをしているとの回答であった。支援系が「4派遣の受け入れはしない」という回答が多いが、これは専門性が強いことによるものと思われる。地域別では「1受け入れている」は全て旧石狩市エリアであった。

6 外国人材の活用について

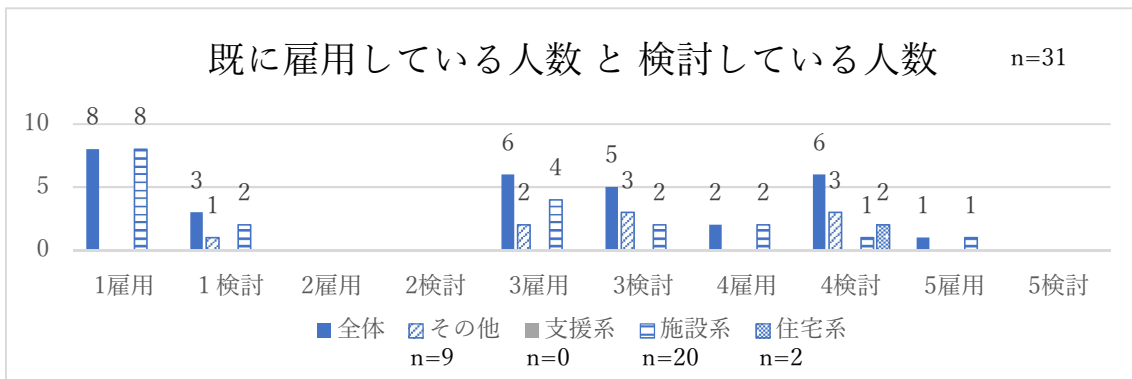
【設問】 外国人（在留カードを持っている人）の雇用（技能実習生含む）について、どのような状況（またはお考え）ですか。



(注釈) 1 既に雇用している 2 検討している 3 わからない 4 外国人の雇用はしない

7 外国人材雇用的人数、制度について

【設問】 質問6で1または2と回答した場合、活用制度（または活用検討している制度）における雇用（または雇用検討）の人数（想定人数）を記載してください。



(注釈) 1 技能実習 2 E P A（経済連携協定） 3 在留資格「介護」 4 特定技能1号
5 その他

分析概要

外国人材の活用について、全体では、「4 外国人の雇用はしない」という回答が最も多かったが、次に「3 わからない」という回答が多かった。一方で、前回調査と比較し、「1 既に雇用している」、「2 検討している」という回答が高くなっている。

分類類型別に見た場合、支援系では「4 外国人の雇用はしない」という回答が最も多く、これは業務の性質上によるものと思われる。施設系では、「1 既に雇用している」という回答が多くなっている。住宅系では「外国人の雇用はしない」という回答が最も多かった。

「1 既に雇用している」と回答した事業所は、技能実習生、在留資格介護、特定技能1号により、全体で9事業所あった。また、「2 検討をしている」と回答した事業所は施設系が

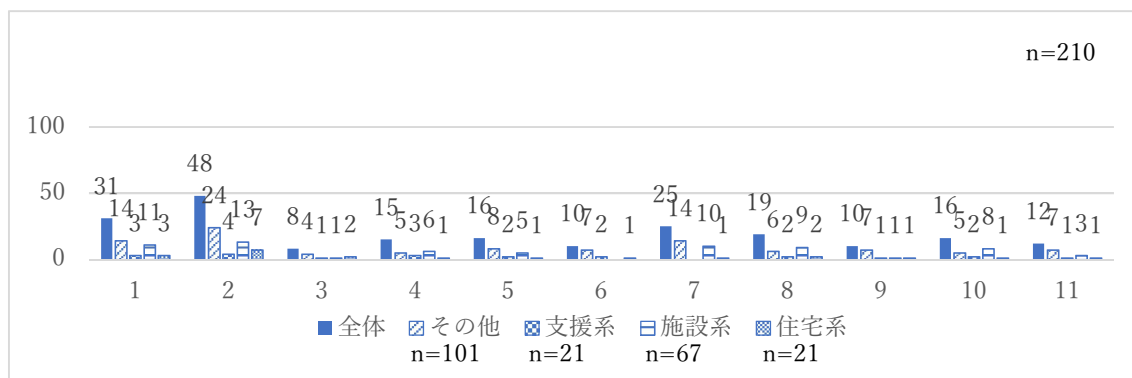
最も多かった。

外国人材雇用の人数、制度について、「2 検討している」に着目すると、前回調査では技能実習生の検討が多かったが、今回は在留資格「介護」、特定技能1号が高まっている。また、地域別では、厚田区、浜益区では既に雇用している事業所が多く、旧石狩市エリアでは検討が多く見られた。

全体として、外国人雇用に関しては法人としての考え方が大きく施設管理者等ではなかなか回答し難い点もあり、また、外国人の在留に係る制度や動向が難解であり、受入れ体制も含め簡単には検討に踏み出せない面も少なからずあるものと思われ、これらの要素により、「3 わからない」、「4 外国人の雇用はしない」という回答が多かったものと思われる。

8 外国人材雇用の課題や懸念について

【設問】 外国人材雇用にかかる課題や懸念される事項を上位 3 つまで番号を○で選んでください。



(注釈) 1 職場内（職員）とのコミュニケーション

2 利用者とのコミュニケーション

3 利用者の外国人への偏見等

4 実務における、労働慣行（日本式の雇用契約や就労条件等）の違い

5 実務における、日本語による介護関連の記録等

6 実務における、自動車の運転

7 指導、教育をできるスタッフの不足

8 外国人労働者の不安感や悩みなどの対応

9 外国人雇用各制度の手続きへの対応

10 食や文化の違い等を考慮した職場や住まい等の対応

11 コスト増（受入体制、住まいの整備や制度手続き等）

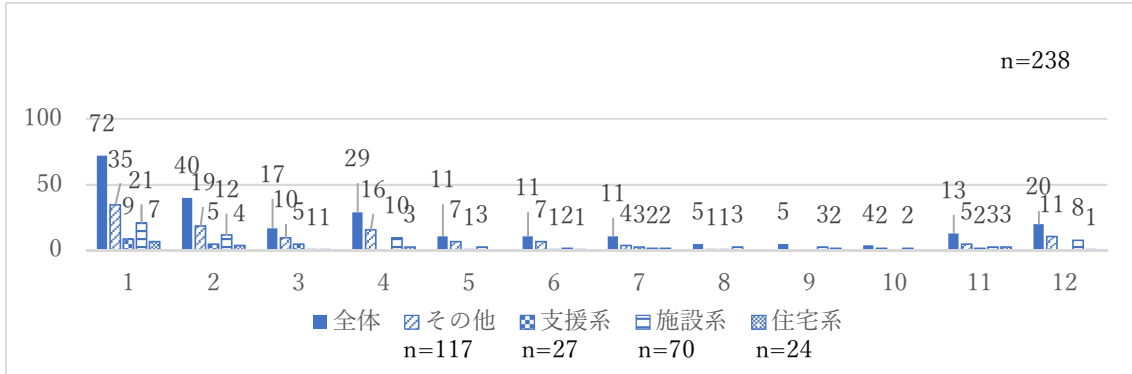
分析概要

外国人材雇用の課題や懸念については、全体で最も多かった回答が「2 利用者とのコミュニケーション」、次に多かった回答が「1 職場内（職員）とのコミュニケーション」、その次に多かった回答が「7 指導、教育をできるスタッフの不足」であった。これは、実際に雇用している事業所が増えてきた事による傾向と思われる。

全体の傾向と分類類型別、また地域によってもあまり大きな差は見られず、コストや手続きよりも、コミュニケーションや実務への不安感が大きい傾向にあると思われる。

9 介護人材不足への打開策について

【設問】 介護人材不足への打開策について、有効と思われるものを上位 3 つまで番号を○で選んでください。



- (注釈) 1 介護報酬（賃金）アップ
 2 業務量、事務負担の軽減
 3 定年まで安心して働けるなど、長期雇用の確保
 4 休暇の活用促進や福利厚生の充実
 5 出産や子育てを支援する制度の充実
 6 資格取得や研修等による能力向上に向けた支援
 7 専門職種確保に対する支援
 8 移住定住施策と連携した地域外からの人材確保
 9 外国人介護人材の受入れ
 10 介護ロボットの活用
 11 介護ICTソフト等（タブレット等）の活用
 12 介護や福祉職のイメージアップ

自由記載欄

- ・居宅に関しては業務内容と介護報酬が合っていない。特に在宅では急な対応等で様々な部分で時間を要する。
- ・生産年齢人口が減っていく中、様々な業種を比べてもまだまだ賃金は低いうえに労力は大きい業種にあると思われる。公定価格なので企業や法人の努力にも限界があるというのが、介護業界の実態であると考えます。やはり賃金は、どう考えても安すぎますし、先が期待できません。イメージアップでカバーできるレベルではないと思います。
- ・特養は規模から考えると日本のスタッフで人数を確保してというのは非現実的と考える。人の手や目が必要のない環境を準備する必要がある。よってICT、ロボットは欠かせない。また人の手はどうしても必要になる場面においては業務にランクを付け上位業務は日本人スタッフ、下位業務は外国人スタッフにしていくことが必要と考える。
- ・居宅支援事業なので、今後スタッフは外から見た印象ですが、やはり大変な仕事なので、それなりの報酬、職場環境、負担軽減は必要かと思えます。
- ・業務シェア。60歳以上の方で時短交代制の勤務や小さい子がいる方で休みがちになる方を積極的に雇用し助け合える環境が理想。
- ・訪問介護の人材獲得に特に苦戦します。単価が低いので訪問件数を増やさなければ収益が出ず、業務の負担が強くなります。報酬アップし賃金を高くしなければ求人は見込めません。
- ・介護人材はこれからますます不足して奪い合いになる。外国人人材の日本定住で確保していくべき。
- ・介護保険計画と連動した、人口問題や定住施策と合わせた介護人材の確保の検討が必要。
- ・法人や地域の人材だけでは限界がきている（新規職員確保）
- ・現在の体制でギリギリの所でなんとかサービスを維持できているが、年々職員の加齢と

共に退職等を視野に入れた場合、外部からの受け入れ態勢等（ほか地域、外国人等）の拡充の必要

- ・受け入れに当たり住居等の整備
- ・思いはたくさんありすぎて書ききれません。実際介護している人たちにしてみれば介護人材不足がどうしてか、理解している。仕事が大変なんじゃなく、もっと別のところにあるのでは？
- ・ケアマネには、処遇改善加算等なく給料が安いので改善できればよい。
- ・介護は大変というイメージの払拭
- ・小中高校生に介護職や介護現場について知ってもらうことも大事かと思っています。

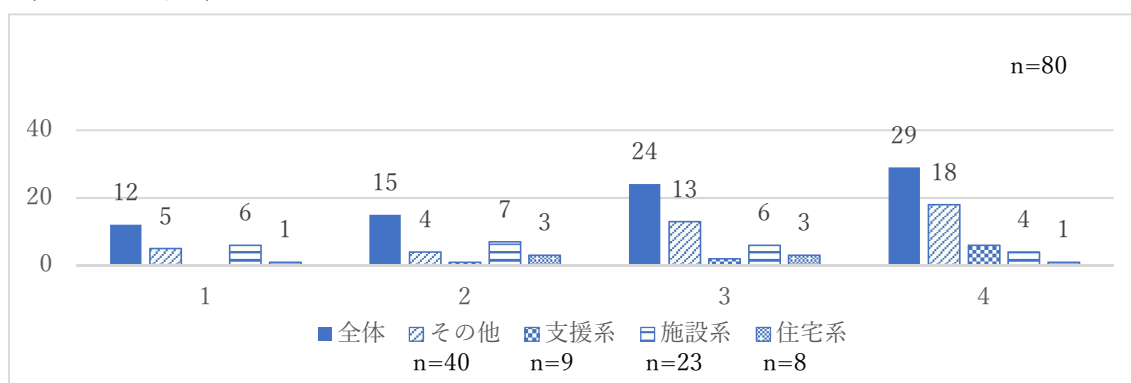
分析概要

介護人材不足への打開策については、全体で最も多かった回答が「1 介護報酬（賃金）アップ、次に多かった回答が「2 業務量、事務負担の軽減」、その次に多かった回答が「4 休暇の活用促進や福利厚生充実の充実」であった。全体の傾向と分類類型別、また地域によってもあまり大きな差は見られず、賃金の増と同時に業務負担の軽減や休暇促進等、直接的な労働環境の改善が多く求められていると思われる。

また、上に記載した上位3位の次には「12 介護や福祉職のイメージアップ」が多く回答されているが、労働環境の改善と並行して、長期的な人材確保策としての介護や福祉職のイメージアップが求められていると思われる。「11 介護ICTソフト等（タブレット等）の活用」については業務効率化等もあり浸透してきていると思われる。

10 介護ロボットの活用について

【設問】 介護ロボット（介護リフト、離床センサー等）の活用について、どのような状況（またはお考え）ですか。



(注釈) 1 既に活用している 2 検討している 3 わからない 4 活用はしない

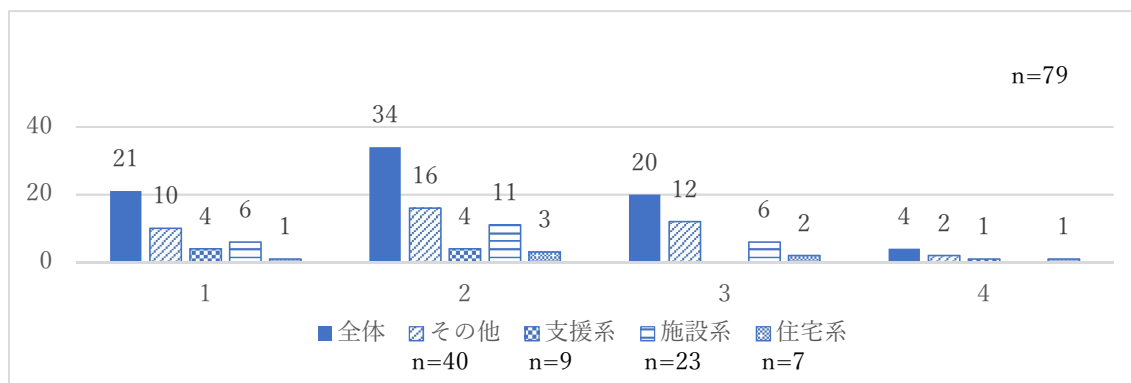
分析概要

全体では、既に活用している事業所も見られる一方、わからないと回答する事業所も多く、活用はしないという回答が最も多かった。分類類型別に見た場合、「1 既に活用している」という回答が最も多かったのが施設系で、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護老人保健施設での活用が見られた。前回調査時と比較し「1 既に活用している」「2 検討している」

が多くなっており、活用する方向が強くなってきているものと思われるが、全体的に「3わからない」、「4活用はしない」との回答が多く、経営の手法や状況の違いがあることや、介護ロボットの知識や周知の不足があるものと思われる。

11 介護ICTの活用について

【設問】 介護ICT（タブレットやスマホ、インカム等業務効率化のためのICT機器）の活用について、どのような状況（またはお考え）ですか。



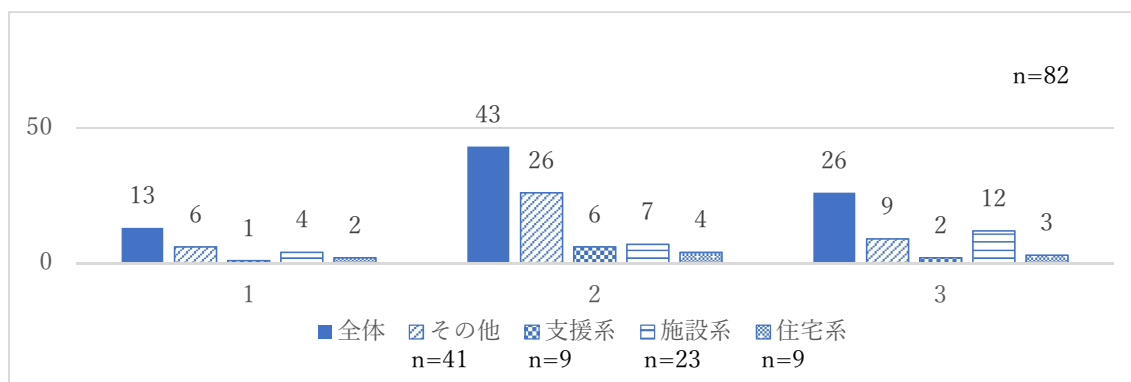
（注釈） 1 既に活用している 2 検討している 3 わからない 4 活用はしない

分析概要

全体では、「2 検討している」「1 既に活用している」という事業所が多く見られる一方、「3 わからない」と回答する事業所も多かった。分類類型別に見た場合、支援系では、「1 既に活用している」という回答が半数近くとなり、多くの事業所が検討をしている状況であった。コロナ禍によりICT機器の普及が進んだ側面もあり、業務効率化の一助として考えられているものと思われる。

12 ハラスメント対策について

【設問】 利用者・家族等からのハラスメント対策については、職場におけるハラスメントとは異なる課題として取り組む必要があります。また、令和3年度介護報酬改定では、介護職員の処遇改善や職場環境の改善に向けた取組みの1つとして、介護事業者にハラスメント防止のための必要な措置の実施が求められたところですが、「介護現場におけるハラスメント対策マニュアル（令和4年3月改訂）」等を参考に、必要な措置を講じていますか。



(注釈) 1 講じていない 2 検討している 3 講じている

具体例等自由記載欄

- ・職員間による情報共有につとめ、研修を行っています。一ヶ月に1~2回会議等などで意見を出し合う。
- ・管理者にする面談。各セクション上司による相談機会の確保
- ・就業規則への記載。入職時へ説明。
- ・ハラスメント防止に関する規定の整備。ハラスメント対策における窓口の設置と周知。
- ・社内通知、会議内議題
- ・各管理職向けに労務士を迎えハラスメント対策セミナー等を行っている（年2回）令和5年度からはオンライン研修を導入しハラスメント研修を行い研修後には簡単なテスト等も行う予定でいる。
- ・マニュアルを参考にし、会議で話し合い個々の言動を見直す機会となっています。
- ・ポスターの掲示。勉強会。
- ・相談しやすい環境作りの為、常にカンファレンス時に誰でも発言しやすい雰囲気作りを意識、言葉使い、挨拶、笑顔を意識する声掛けを重要視。
- ・事案が発生した場合は所属長へ報告し速やかに対応している。
- ・毎月の情報交換と事象発生においては居宅連絡などマニュアル化している。
- ・ハラスメントは組織として許されないこととして、事案が起こった場合は所長・センター長・部長間で情報共有し、当事者とも話し合っ改善が見られない場合は契約解除の措置を取ります。
- ・契約書に文章を入れて同意サインを頂いている。
- ・研修内容の1つです。食印全員研修し、自覚内容の理解をしています。
- ・担当者を決め相談を受ける。一人では対応させない。
- ・2人での訪問。社内会議での情報共有。包括への相談。

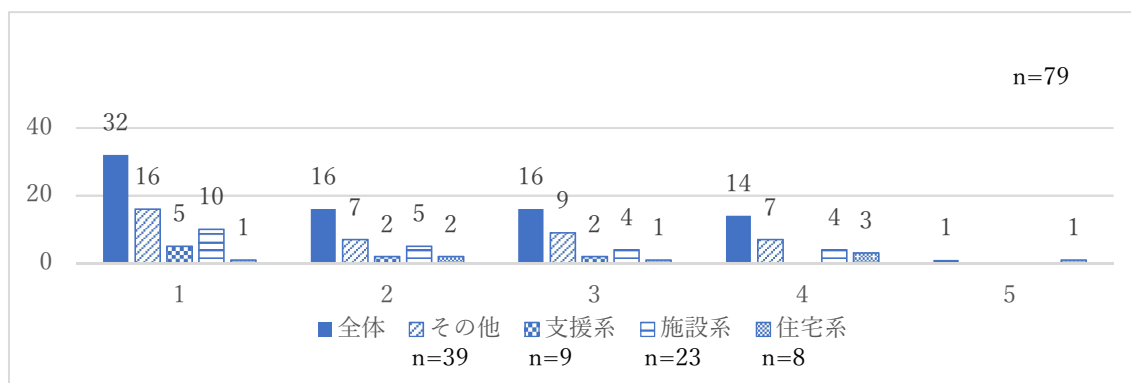
分析概要

全体では、「2 検討している」に次いで「3 講じている」という回答が多かった。前回調査時と比較し、「1 講じてない」が減少し、「3 講じている」が増加している。

また、分類類型別に見ると、施設系において、「3 講じている」、「2 検討している」と回答している件数が他の類型よりも多く見られた。これは施設系が他の介護サービスよりも日常的な介護現場においてハラスメントが身近にあり、検討や対策の機会がある状況にあると思われる。

13 職員の資質向上について

【設問】 職員の資質向上にあたり、様々な研修等への参加または実施をしていると思いますが、その効果についてはどのように感じていますか。



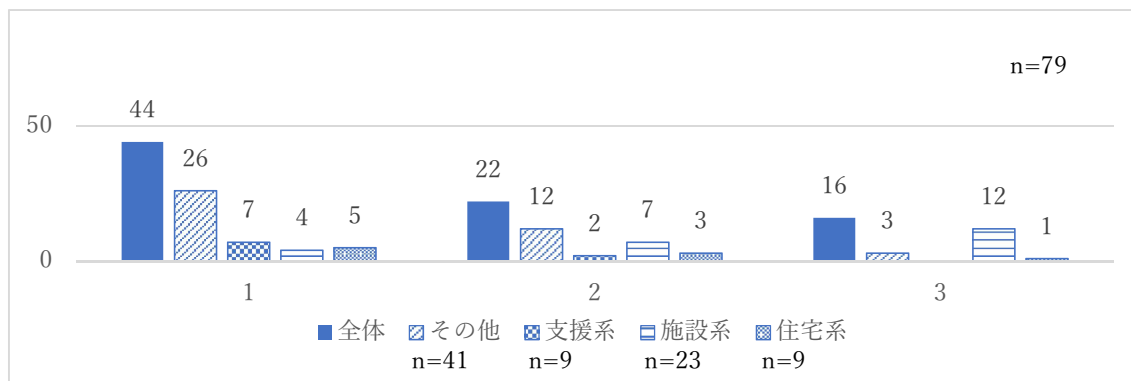
- (注釈) 1 研修等を必要な分は実施等しており、効果がある
 2 研修等を必要な分は実施等しているが、効果的ではない
 3 研修等を実施等しているが、十分に実施できておらず、効果的ではない
 4 研修等を実施したいが、時間等余裕がなくできていない
 5 研修等の必要はない

分析概要

全体では、「1 研修等を必要な分は実施等しており、効果がある」という回答が最も多く、次いで「2 研修等を必要な分は実施等しているが、効果的ではない」「3 研修等を実施等しているが、十分に実施できておらず、効果的ではない」という回答が多かった。前回調査時と比較すると、この2, 3が多く、研修は実施しているが効果が感じられない感覚が多くなったと思われる。事業所の8割以上は職員の資質向上にあたり様々な研修等の実施又は参加をしており、その半数は効果的と感じている一方、半数は効果が感じられていないという結果となっている。

14 事業所外との交流について

【設問】 貴事業所においては、利用者と子ども（保育園や学校、子ども会等）や障がい者（施設等）、地域住民（町内会イベント等）等との交流を行っていますか。



(注釈) 1 行っていない 2 検討している 3 行っている

具体例等自由記載欄

- ・2020年以前は行っていたが、現在は休止状態となっている。
- ・以前はイベント行事で行っていましたが、コロナ感染拡大のため一切行っていません。交流したくてもできません。
- ・コロナ渦で中断中、2023.4以降に緩和検討。
- ・コロナの流行もありなかなか実施できてないが、常に検討している。
- ・コロナ感染予防のため、近年は実施できていないが、近隣保育園との交流を行っていた。また、来年度から同法人で放課後等児童デイ等の開設を予定しており交流の場は増すと予想できる。
- ・現在はコロナで行っていないが町内会行事等、積極的に参加している。
- ・現在はコロナの為行っていませんが、町内会行事、クリーン作戦、お祭り出店参加、小中学校生徒との交流会、合同推進会議での町内の方々との講習会を行っている。
- ・コロナ前は交流していました
- ・現在はコロナで中止です。前は子供盆踊り、お祭り、緑苑台小学校訪問など。
- ・事業所（同じ敷地内）で三か所あるので共用でイベント等に参加している。（盆踊り、おまつり、学芸会）
- ・3事業所の中にサ高住が位置しているので行事は合同で開催している。
- ・事業所スタッフが近隣町内会や老人クラブに出向き講座（介護予防教室）を行っている。また、学校に出向き介護講座を行っている。
- ・コロナ渦で3年ほど行えていないが、以前は敬老会で利用者と保育園児との交流を図っていた。感染状況を考慮しながら再開したい。今は地域住民の方にドライヤーや喫茶、麻雀などボランティアをお願いして、利用者との交流を図っている。
- ・以前は行っていたが、近年はコロナにより行っていない。
- ・コロナ渦になる前は年二回お祭りやバザーを事業所の休みに開催し、ご家族様や地域住民の方々にも来ていただいております。このままなくすのではなく再開をする方向で探索しております。
- ・厚田区集落支援員の支援を受け、厚田区ない高齢者クラブと畑作りを通じて地域交流を実施した。
- ・中学校への出前講座（介護の仕事）/小学校へのボランティア活動の呼びかけ。/中学校からの訪問活動、交流活動。/夏祭り（イベント）講習会等（イベント）
- ・コロナ渦でなくなっはいましたが、徐々にふやせるのではと思っています。
- ・高等支援学校の生徒さんと絵はがきを送り合う。町内会行事の参加。

分析概要

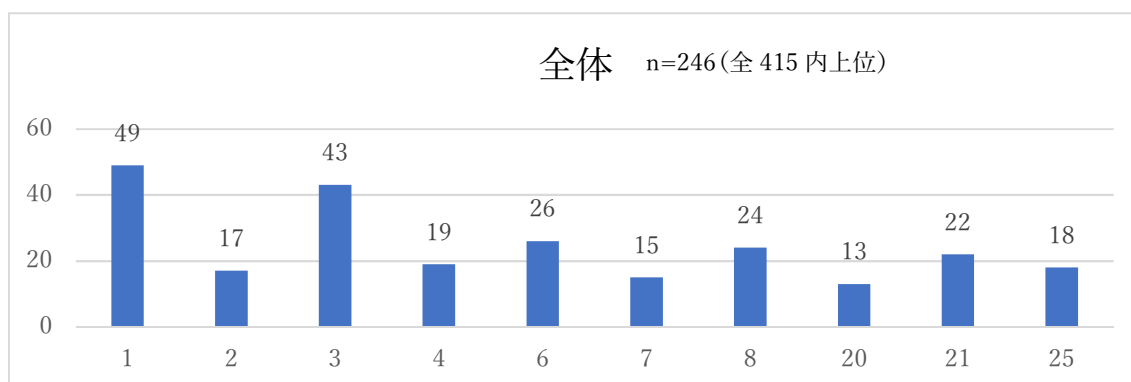
全体では、半数以上の事業所が地域等との交流を「1 行っていない」と回答している。前回調査時は、「3 行っている」の回答が全体の半数近くを占めていたが、コロナ禍の影響が回答に反映されていると思われ、具体例等自由記載欄ではコロナ禍が終わり次の段階では再開、検討したい旨の記載が多く見られた。

分類類型別に見ると、施設系においては全体の傾向に反し、地域が等との交流を「3 行っている」の回答が多かった。施設系は、これまでも、施設と地域との繋がりを深めるとともに、入所者のレクリエーションも兼ねて精神的に行っている状況があると思われる。

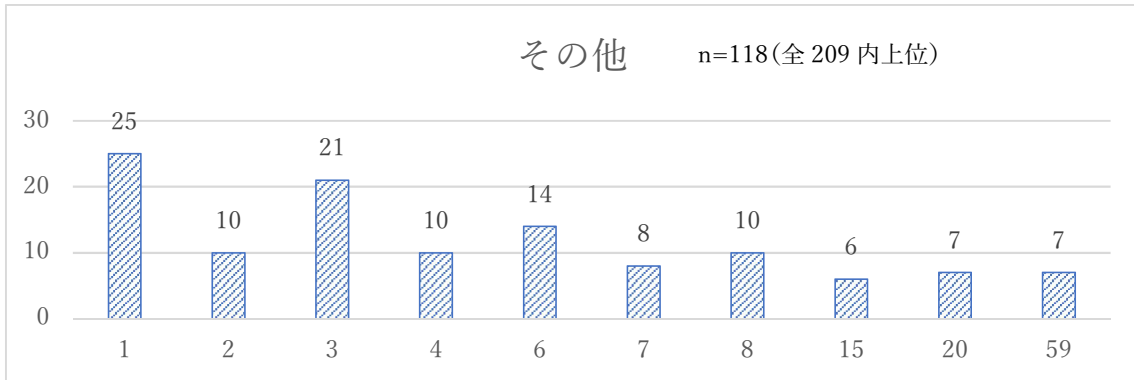
15 利用者ニーズの変化等について

【設問】 石狩市内で、現在市民ニーズの高い介護サービス等は何だと思えますか。上位 6 つ以内まで番号を○で選んでください。

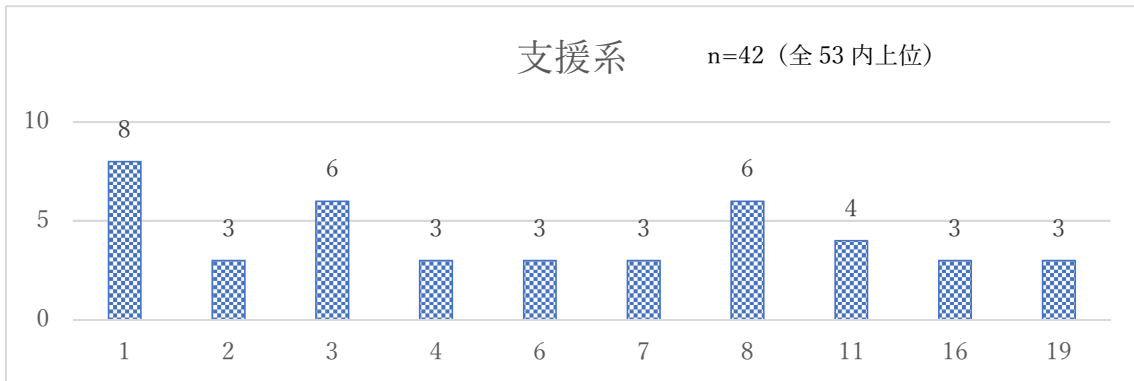
サービス類型が多いため、ここでは全体、分類類型別にそれぞれ概ね上位 10 サービスを表示している。



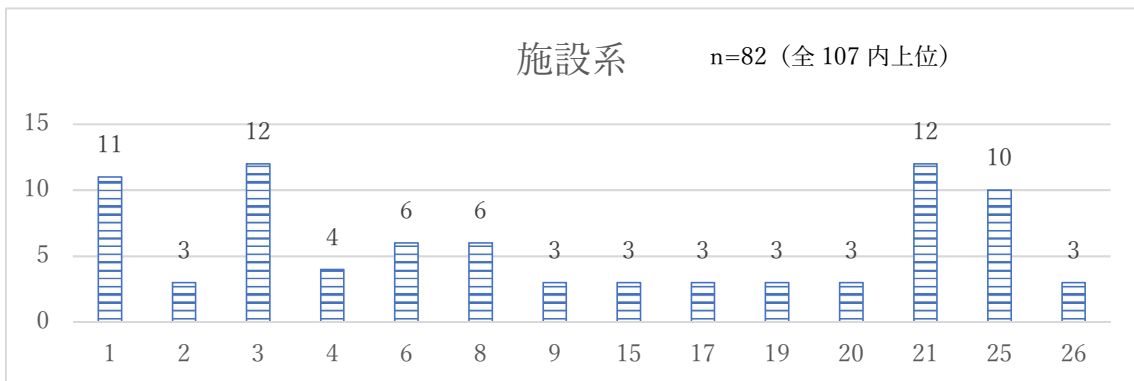
(注釈) 1 (介護) 訪問介護 2 (介護) 訪問入浴介護 3 (介護) 訪問看護
4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護 7 (介護) 通所リハ 8 (介護) 短期入所生活介護
20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護 21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護
25 (介護施設) 介護老人福祉施設



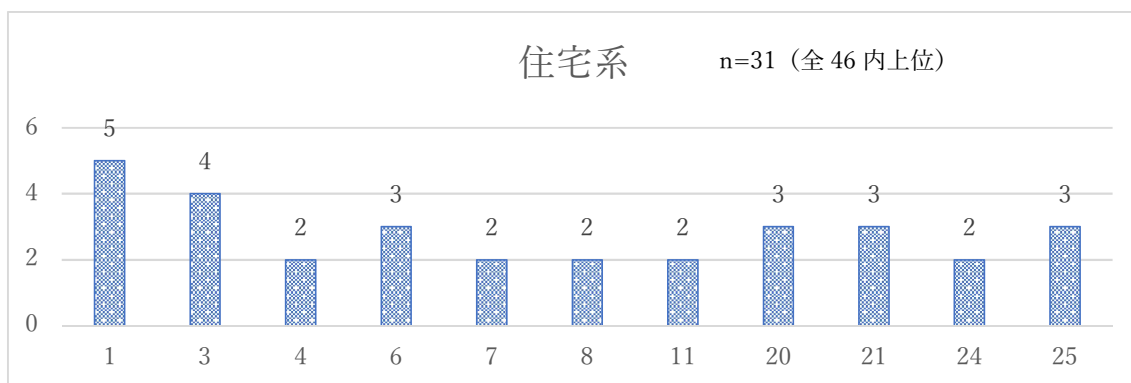
(注釈) 1 (介護) 訪問介護 2 (介護) 訪問入浴介護 3 (介護) 訪問看護
 4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護 7 (介護) 通所リハ 8 (介護) 短期入所生活介護
 15 (介護) 居宅介護支援 20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護
 59 (住宅) サービス付き高齢者向け住宅



(注釈) 1 (介護) 訪問介護 2 (介護) 訪問入浴介護 3 (介護) 訪問看護
 4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護 7 (介護) 通所リハ 8 (介護) 短期入所生活介護
 11 (介護) 福祉用具貸与 16 (介護地密) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
 19 (介護地密) 認知症対応型通所介護



(注釈) 1 (介護) 訪問介護 2 (介護) 訪問入浴介護 3 (介護) 訪問看護
 4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護 8 (介護) 短期入所生活介護
 9 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設) 15 (介護) 居宅介護支援
 17 (介護地密) 夜間対応型訪問介護 19 (介護地密) 認知症対応型通所介護
 20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護 21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護
 25 (介護施設) 介護老人福祉施設 26 (介護施設) 介護老人保健施設



(注釈) 1 (介護) 訪問介護 2 (介護) 訪問入浴介護 3 (介護) 訪問看護
 4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護 7 (介護) 通所リハ 8 (介護) 短期入所生活介護
 11 (介護) 福祉用具貸与 20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護
 21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護 24 (介護地密) 複合型サービス (看多機)
 25 (介護施設) 介護老人福祉施設

分析概要

全体でも、分類類型別でも、「1 (介護) 訪問介護」「2 (介護) 訪問入浴介護」「3 (介護) 訪問看護」「4 (介護) 訪問リハ」「6 (介護) 通所介護」「7 (介護) 通所リハ」「8 (介護) 短期入所生活介護」の回答が多かった。

分類類型別に見た場合でそれらの次にニーズがあると回答があったものは、その他では、「15 (介護) 居宅介護支援」「20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護」「59 (住宅) サービス付き高齢者向け住宅」、支援系では、「11 (介護) 福祉用具貸与」「16 (介護地密) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「19 (介護地密) 認知症対応型通所介護」施設系では、「9 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設)」「15 (介護) 居宅介護支援」「17 (介護地密) 夜間対応型訪問介護」「19 (介護地密) 認知症対応型通所介護」「20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護」「21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護」「25 (介護施設) 介護老人福祉施設」「26 (介護施設) 介護老人保健施設」、住宅系では、「11 (介護) 福祉用具貸与」「20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護」「21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護」「24 (介護地密) 複合型サービス (看多機)」「25 (介護施設) 介護老人福祉施設」であった。

各分類類型により視点が若干異なっているように思われるが、全体を通してみると、サービス付き高齢者住宅を含む在宅での通所介護、訪問介護・看護、福祉用具貸与などとともに認知症の増加への対応、また、これらへ対応する介護支援専門員のニーズがあると思われる。また、短期入所生活介護のレスパイト機能も求められているものと思われる。

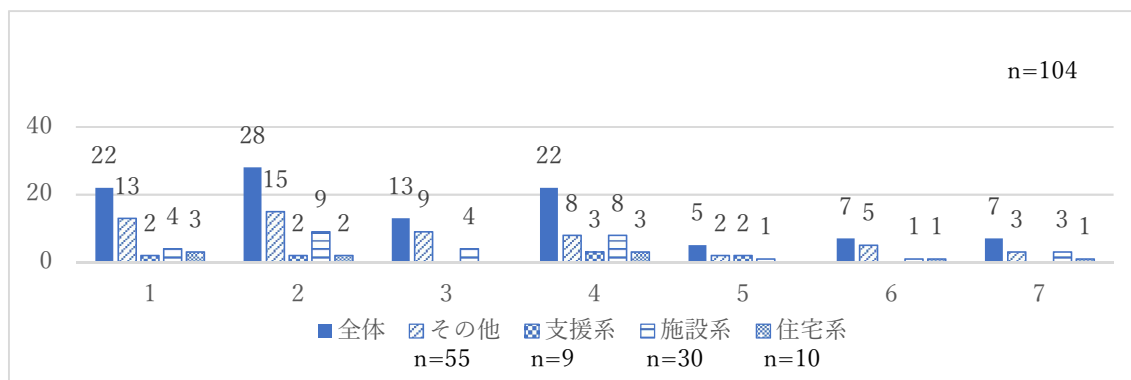
また、在宅介護へのニーズがある一方、グループホーム (認知症対応型共同生活介護)、介護老人福祉施設、介護老人保健施設のニーズも高めであることが伺われる。

16 貴事業所の所管するサービス等について

このアンケート項目は事業所のサービス等の確認なので省略する。

17 サービスの需要と供給バランスについて

【設問】 貴事業所で概ね想定する事業エリア内において、貴事業所の提供するサービスの需要と供給の現在（または今後数年先）の状況をどう思いますか。質問 16 の区分毎にひとつ〇で選んでください。



- (注釈) 1 サービス量が多いが、利用者は減少
 2 サービス量は多く、利用者も増加
 3 サービス量は適正だが、利用者は若干減少
 4 サービス量は適正で、利用者も横ばい
 5 サービス量は適正だが、利用者は若干増加
 6 サービス量は少なく、利用者も減少
 7 サービス量は少ないが、利用者は増加

分析概要

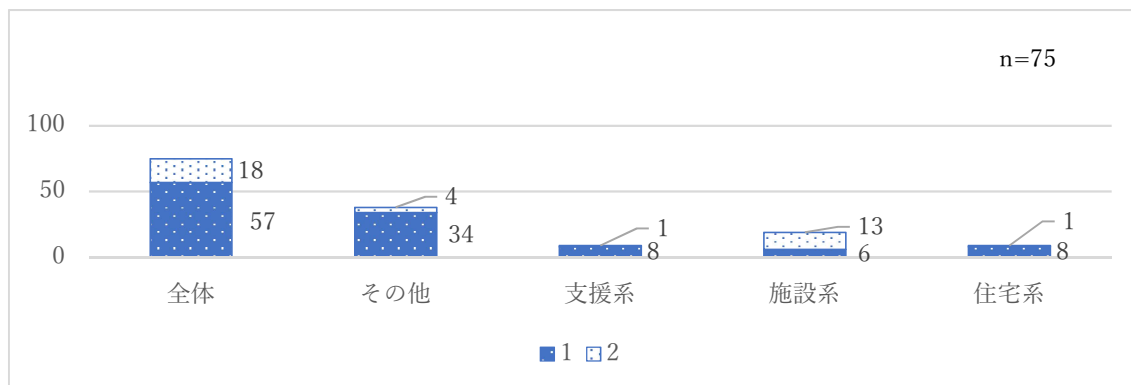
全体では、「2 サービス量は多く、利用者も増加」「1 サービス量が多いが、利用者は減少」「4 サービス量は適正で、利用者も横ばい」の順に回答が多く、前回調査時と比較し、サービス量が多いと感じている事業所が多いと思われる。その中で若干の利用者増減の感覚を持っているものと思われる。

需要と供給がアンバランスであり「1 サービス量が多いが、利用者は減少」と感じている事業所の提供するサービスは、22 回答の内、通所（総合事業を含む）が 10 件と最多であった。地域別の視点では、旧石狩市エリアでこのように感じていると回答する事業者が多かった。

「7 サービス量は少ないが、利用者は増加」と感じている事業所の提供するサービスは、7 回答の内、グループホームが 3 件、他は、訪問型サービス A（緩和/委託）、地域密着型通所介護、サービス付き高齢者住宅、居宅療養管理指導が 1 件ずつであった。地域別の視点では、このように感じていると回答する事業者は旧石狩市エリアのみであった。厚田区、浜益区は概ね適正なバランスがとれており、旧石狩市エリアでは、通所介護の供給が多いと感じている事業者が多く見られ、一方、グループホームのサービス量が少ないと感じている事業者も見られる。

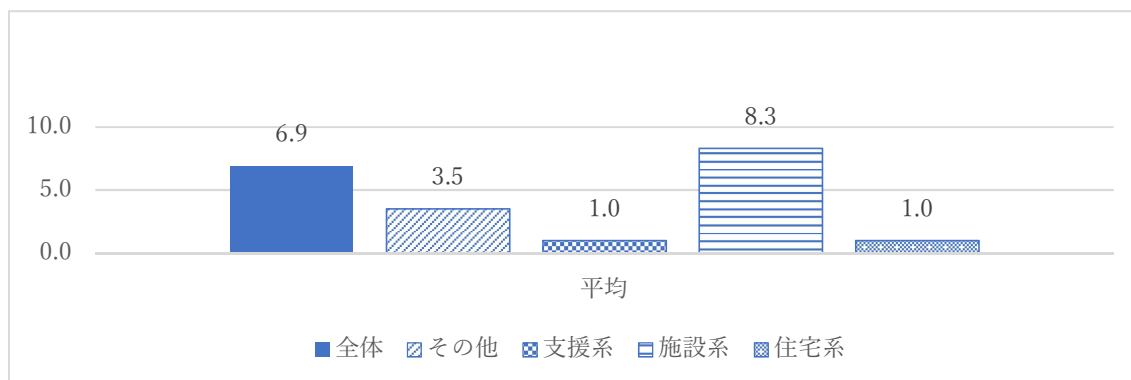
18 提供サービスの待機者について

【設問】 貴事業所の提供するサービスにおいて、待機している利用者はいますか。いる場合はどれくらいの人数がいますか。



(注釈) 1 いない (そのようなサービスではない) 2 いる

概ねの待機者数



分析概要

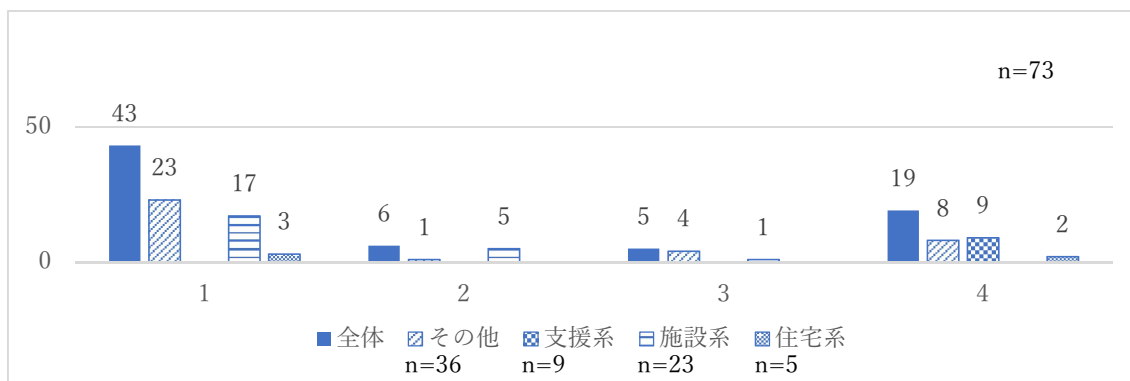
事業所の提供する各サービスにおいて、待機している利用者があると回答した事業所は全体で18事業所(約2~3割)であり、施設系は13事業所(約7割)であり、最も多かった。

概ねの各サービス毎の平均待機者数は全体で6.9人(23回答で合計124人)、その他で3.5人(8回答で合計14人)、支援系で1人(1回答で合計1人)、施設系で8.3人(13回答で合計108人)、住宅系で1人(1回答で合計1人)であった。概ねの待機者は、施設系が108人と最も多く、特別養護老人ホームが概ね8割を占め、他は数人の待機との回答が多かった。

19 特定処遇改善加算について

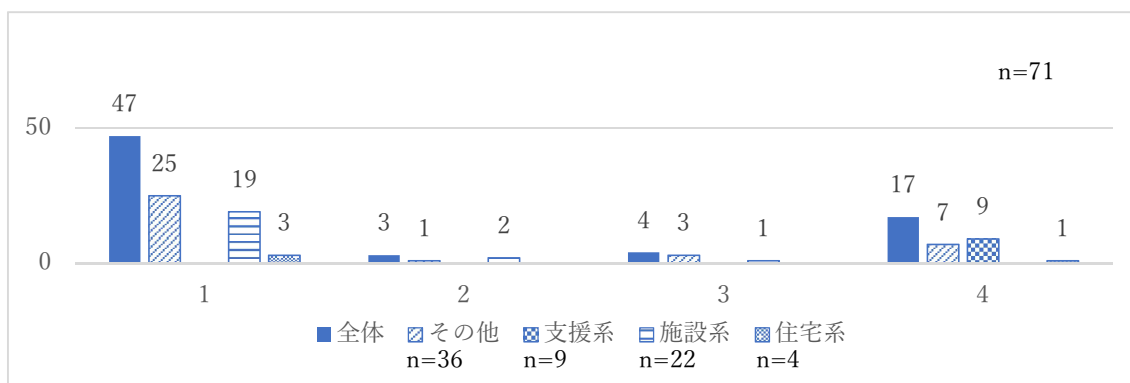
【設問】 貴事業所では、介護職員等特定処遇改善加算(令和元年10月開始)及び、介護職員等ベースアップ等支援加算(令和4年10月開始)について、どのような対応をしていますか。(有料老人ホーム等は回答不要です。)

【介護職員等特定処遇改善加算】



(注釈) 1 算定している 2 算定する予定 3 算定しない 4 行っているサービスが対象でない

【介護職員等ベースアップ等支援加算】



(注釈) 1 算定している 2 算定する予定 3 算定しない 4 行っているサービスが対象でない

分析概要

介護職員等特定処遇改善加算については、支援系、住宅系についてはそもそも処遇改善加算の非対象サービスであることから、「3 算定しない」又は「4 行っているサービスが対象でない」を回答している事業者が多かった。その他では、約6割の事業所が「1 算定している」と回答し、「3 算定しない」との回答が4事業所あったが、誤記によるものと思われ、これを考慮すると約8割は「1 算定している」と思われる。

また、介護職員等ベースアップ等支援加算については、令和4年10月開始前の補助制度があった事もあり、介護職員等特定処遇改善加算と概ね同様の傾向と思われる。

20 その他のご意見等

- ・ 今後はハラスメントが多くなる事が想像されて、介護を受けられる方の権利主張が増え対応に苦慮するケースが出ると思います。ケアマネとしての不安があります。
- ・ コロナ対策で石狩市の職員の皆様もご苦勞されたかと存じます。私ども事業所も大変な苦勞をして今まで来ています。派遣や外国人労働者は民間の会社はとてもひどいです。市が主体となり信頼のおける関係を作っていただきたいです。介護報酬が上がらない事は市の責任ではありませんが、切実な問題であります。何卒宜しくお願い致します。ありがとうございました。
- ・ 現状うちの事業所は人員不足ではありませんが、介護人材不足により、事業所を閉鎖しなければならなくなる事業所が増えてきてしまいます。色々な案を持っている市内事業

- 所があると思うので、そのような方々と会議をして積極的な予算活用をお願いします。
- ・人材育成、業務のスマート化
 - ・処遇改善やベースアップ加算は、当事業所では算定予定はありません。事務がはんざつすぎて、事業所規模に見合わない為です。そんな加算で調整ではなく、基本単位を見直してほしいです。
 - ・調査している事項が現実的ではない様に思います。
 - ・少子高齢化もあり、人材不足が続けば必ず介護施設等倒産が考えられ、親等は自宅で介護しなければならなくなることを伝えた方がよいと思う。現在はお金を払えば施設（誰かが）見ていてくれるが、可能性はあるとおもう。（他の職種もそうだと思うが）
 - ・人材確保は急務だと思います。当事業所でも人材確保は苦慮しています。行政と民間が一体となって取り組まなければ入所系事業が衰退するとおもいます。介護ロボット、ICT これからは欠かせません。北海道導入に対する補助制度がありますが枠が限られます。市でもそれに対する補助は予定されませんか？
 - ・高岡地区やトーマン団地方面、特有の課題ですが訪問系のサービスが足りないと思っています。特に訪問入浴は全て断られていますので、やむなくデイ等で入浴支援を代打しているのが現状です。
 - ・ご本人の意思よりもご家族の意向が優先され、サービス変更される場合がみうけられ、仕方ない部分もあるかもしれませんが、ご本人の意思をもう少し聞いて上げれる（言わせてあげる）環境になったらいいと思う事があります。
 - ・介護職員の確保にとっても苦労している。職員の確保ができれば、近い将来に事業運営の危機に至る可能性があります。
 - ・職員の抱える悩みは人間関係が多く、打開する提案や、他のモチベーションとなることを行えてない為、検討していきたい。看多機の特性上外部から照会が安定して得られていないことが課題である。
 - ・住宅としてお部屋を貸し、食事を提供しています。介護事業はしておらず、職員も調理員のみです。数名はお部屋のみで食事もしていません。回答できる所がないです。
 - ・訪問介護員が高齢化しているのが、若手の求職者がいない。
 - ・報酬が下がる中、今後のサービスの質の維持を憂慮しています。
 - ・石狩市の高齢者人口は2040年まで増え続け、北部の遠隔地への介護提供が厳しくなってくる。公営団地にエレベーターがあれば高齢者になった遠隔地の人を受け入れできる。高齢者限定のスマートシティを実施する必要があると思います。
 - ・今後、感染症の流行が重なる度に利用者が減少するかと思うととても不安です。（コロナの5類移行による行政フォローも無くなると色々な面で負担が増加していく不安もあります。）
 - ・高齢化率が60%近い今の現状では、サービス量や職員の体制等状況に応じて考えていかなければならない。現状のサービスは利用する高齢者の数字は少ないがサービスが無くなってしまうと区内で生活できない現状がある。独居や老々介護の世帯数の割合が増加している中で介護サービスが必要となっている。
 - ・定着している職員は、又いつ施設が他の会社に売られ、この施設で働けなくなるのか不安でしょうがない。一年一年安心して働けないと口々に言う人が多くなっています。そうやって若い人がいなくなっているのも確かです。
 - ・施設入居の方々が沢山居るというイメージ、何かしらのサービスを使わなくてはシルバーホーム生活ができなくなっている方ばかり入居されている。
 - ・＜居宅＞地域の人口減に伴い、利用者数の減少がある程度想定されるものの、市直営・包括支援センター兼務という現状で今後も現在の職員数の維持は必要と考えます…が職員も退職年齢に近くなりつつあるので、人材確保の不安は感じています。＜その他＞区内の事業所の人材不足、職員の高齢化は待たなし状態、賃金アップや福利厚生の中でも働きやすい（長く働ける）職場があると若い方も目を向けてくれる地域になる。地域の活性化と言葉で言うのは簡単ですが、難しさを痛感しています。福祉や介護以外の職種の方とも意見交換し浜益の未来を考えたいと思います。
 - ・昔に比べると利用者・家族の形が多様化になってきており、ハラスメントも増えてきているように感じる。
 - ・人員基準の見直し、兼務を認めるなど。
 - ・課題としてはスタッフの人員確保が一番課題です。